

★丹後大学駅伝 第77回関西学生対校駅伝競走大会

2015年11月21日(土) 丹後地方コース(京丹後市～宮津市) 8区間 81.4Km

【総合成績】

順位	大学名	記録	順位	大学名	記録
1	京産大	4:10:20	11	大体大	4:24:30
2	立命館大	4:10:23	12	大阪大	4:27:35
3	関学大	4:12:16	13	兵庫県立大	4:27:43
4	大経大	4:14:32	14	奈良学園大	4:28:01
5	京都大	4:14:42	15	神戸大	4:29:12
6	関西大	4:16:11	16	甲南大	4:29:30
7	龍谷大	4:20:30	17	佛教大	4:29:34
8	近畿大	4:21:37	18	大教大	4:32:23
9	同志社大	4:22:20	19	びわスポ大	4:33:14
10	大院大	4:24:15	20	大阪市立大	4:33:25

【区間成績】

区間	距離	氏名(学年)	区間記録	順位	通過	順位
1区	8.0Km	日比 鷹平(M2)	25'54"	18	25'54"	18
2区	8.7Km	丸岡 克成(3)	31'02"	11	51'22"	14
3区	7.0Km	藤田 竣也(2)	20'59"	7	1:17:55	13
4区	9.7Km	濱野 拳(2)	33'25"	18	1:51:20	13
5区	12.3Km	阿賀 康生(4)	38'02"	9	2:29:22	13
6区	12.0Km	成瀬 亮(3)	39'50"	18	3:09:12	14
7区	11.9Km	桂 翔太(1)	39'35"	12	3:48:47	13
8区	11.8Km	池内 真弥(1)	40'25"	19	4:29:12	15

丹後駅伝を振り返って

駅伝主将：丸岡 克成

予選会はチームの波が合わず13位通過と不本意な結果となりましたが、本戦では10位シード権獲得を目標に掲げて調整を行ってきました。前日にメンバー交代する事態が起きましたが、8人中6人が丹後駅伝を経験している充実したメンバーで本戦に臨むことができました。

しかし、実力通りの力を出せた選手もいれば思い通りの走りができなかった選手も多く、結果として予選会のと看より順位を落とし15位という結果に終わりました。今回の駅伝では、個人だけでなくチームとしても改善すべき点が多かったと思います。この結果をしっかりと受け止めて反省し、来年の駅伝では結果を残せるよう努めていきたいと思っています。最後になりますが、応援してくださったOB・OGの皆様、本当にありがとうございました。

選手より一言

1区：日比 鷹平(M2)

1区という駅伝全体の流れを決める大事な区間で大ブレーキを起こしてしまいました。ただただチームに申し訳ない気持ちでいっぱいである。完全に実力不足であった。私にとって最後の駅伝であったが、悔いが残る形となってしまった。後輩たちには現状をしっかり受け止めて練習に励み、来年こそはチームの目標を達成してもらいたい。

2区：丸岡 克成(3)

昨年、一昨年と続けて1区でしたが、今年は2区を走らせていただきました。日比さんから襷を受けた時は前の集団とは離れた状態で少し焦りましたが、後半2kmのことを考えて1人で一定のペースを刻むことに集中しました。風が強い中、5kmまではなかなか詰められなかったのですが、6kmからの坂で前との集団が急速に縮まっていることに気付き、最後の坂道ではなんとか順位を上げて後続に繋ぐことができました。途中までは1人で厳しいレースになったものの、最後の坂でしっかり走れたのは普段から坂を走る環境にあったおかげかなと思います。今年は区間11位でしたが、来年は1人でも区間8位以内の走りができるよう頑張りたいと思います。



3区：藤田 竣也(2)

3区を走りました藤田です。3区は最短区間かつ下り中心のコースですが、10月まで中距離の練習をしていたので距離への不安はありました。

襷を受け取ったときは14位と想定より悪かったのですが、焦らずに自分のペースを意識しました。その結果、中盤の上りとラストの平地でもペースを維持できました。

個人としては良い結果ですがチームとしては残念な結果になりました。シード権取れるように頑張りたいです。



4区：濱野 拳(2)

4区を走らせていただきました。自分の役割を果たす走りが出来ずに去年の自分より1分近く遅いタイムを出してしまいました。10位の学校にも大きく離されてしまい、チームの目標としてのシード権への勢いを失う決定打となってしまいました。この悔しさを忘れずに1年後チームに貢献できる走りが出来るようにこれから取り組んでいきたいと思ひます。ご声援ありがとうございました。



5区：阿賀 康生(4)

5区を走りました。1週間前に10000mを30分19秒で走っており、好調で駅伝に挑むことが出来ました。区間3位を目標にしていたのですが、襷を受け取った時点で神戸大学の前の大阪学院大学、兵庫県立大学との差が85秒だったので単独走となり、3'05"/kmのペースで走っていました。目標は達成出来ませんでした。今年の5区はハイペースで、力の差を痛感しました。応援に来ていただいたOB・OGさんはじめ、部員の皆様に感謝しています。



6区：成瀬 亮(3)

6区を走りました3回生の成瀬です。39分前半を目標に走りましたが力不足でした。他大学はこの区間に上位の選手を配置しており、自分は何んとか粘らなければならなかったのですが厳しかったです。長距離はまだシーズンが続きますので、今後は次の駅伝を見据えハーフと10000mでの結果を求めていこうと思ひます。応援いただいた皆さまありがとうございました。



7区：桂 翔太(1)

初大学駅伝でしたが、大会前から少しずつ調子が上がってきたので自信を持ってレースに望むことができました。僕には襷が繋がることがなく繰り上げスタートでしたが、同時にスタートした選手と競り合いながら走ることができました。最後の登りでペースダウンしてしまい目標タイムには届きませんでした。来年は目標を達成するためにチーム一丸となり練習に励みます。応援ありがとうございました。



8区：池内 真弥(1)

今回8区を走りました。戦前の調子は良くベストな状態でレースに臨めたと思います。しかしながらチームで最も悪い結果となりアンカーとしての責務を果たせませんでした。

自分に託してくれたチームメイト、応援してくれた周りの方々には、これからの自分の頑張りと、結果で返していこうと思います。今回、遠路はるばる応援しに来て頂いて有難うございました。



●ご来援下さったOBの皆様(敬省略)

ご声援ありがとうございました!

椎木茂久(新 17) 依田泰吉(新 17) 平田明男(新 18)
絹田清昭(新 21) 森口智夫(新 27) 森島茂夫(新 27)
矢野 猛(新 27) 二口正紹(新 28) 山本達男(新 30)
東 達也(新 61) 黒島康平(新 61) 嶋田 凌(新 62)



丹後大学駅伝応援記

新62回 嶋田 凌

今回、新61回生東さん、黒島さんと共に観戦しました。一緒に走った後輩が多く、走る前に一声かけられればと思い、可能な限り各区間をまわりながら観戦を行いました。

今回1区を務めたのは日比君(M2)でした。

日比君は私と同期であり、今年が最後の学生駅伝です。大学6年間の集大成、今回2区に配置したパート長丸岡君(3)を活かすためにもシード圏内である10位に近い順位での襷渡しが期待されました。しかし序盤のハイペースにつぶされたこともあり、区間18位、10位と50秒差と出遅れてしまいました。

「日比さんが遅れてきたら僕が尻を拭きます」と出走前に話していた2区丸岡君。これまで2年連続で1区を務めており、襷を渡されるのは大学駅伝で初となります。なかなか前が追いつらい状況にも拘らず、区間11位の走りでも後に期待を抱かせる14位まで押し上げました。今年パーソナルベストを出しておらず、少し心配もしていましたが、さすがはパート長と思わせる走りを見せてくれました。

3区で襷を受けたのは中距離パートに所属している藤田峻君(2)です。1500m4分を切るスピードランナーですが、今年は5000mシーズンベストが学内3位、また3000m障害でも9分10秒台と長距離でも頭角を現していました。チームとしてはこの3区を他チームに対して差をつける区間として位置付けていたように思います。そのチームの期待通り、区間7位の快走で1人を抜いて順位は13位に。シード権とのタイム差も大幅に縮める走りを見せました。実は一昨年私もこの区間を走っており、今回藤田君がどれほどのタイムで走るのか楽しみにしていたのですが、自分のタイムより約1分も速いタイムを叩き出され、打ちのめされました。是非来年も駅伝シーズンでは長距離メンバーの一員として活躍して欲しいです。

続いて4区を任されたのは濱野君(2)。去年5000mのベストが15分21秒であり、個人的には将来のエース候補として期待をしている選手です。しかし今年はなかなか長い距離で結果を出せず苦しんでいたように思います。今回の駅伝も思うように流れに乗ることができませんでした。順位は変わらず13位であるものの、前のチームに大きく離され、区間順位も18位に留まりました。

エース区間である5区は1週間前に10000mで学内新記録30分19秒を出した絶好調の阿賀君(4)です。阿賀君は独走力があり、前のチームと1分以上開いたこの状態でもしっかりとハイペースで押していきました。今年は例年以上に強い選手(京大の平井健太郎君など)が集まった中での区間9位は立派。それでも順位は変わらず13位に留まりましたが、前との差を確実に縮める走りをしました。実は阿賀君、学部の長期実習の関係でこれまで万全の状態に関西駅伝に挑めたことがありません。走っている時の彼の表情からは、最終学年としてこの駅伝にかける想いがひしひしと伝わり、非常に印象的でした。

出走予定選手の直前のアクシデントにより急遽選手変更により6区を任されることになったのは成瀬君(3)です。成瀬君は私が4回生の時の1回生です。当時は練習になかなかついてこれない、そんな選手でしたが、この2年で着実に力をつけてくれました。気づけば私の自己ベストは抜かされており、うれしいような悔しいような…。しかし独走力が求められる今回のレース展開ではまだまだ力不足な部分が出てしまい、区間は18位、順位も1つ落として14位となりました。

先頭を走る京都産業大学、立命館大学がハイペースのレースを展開したこともあり、残念ながら7区以降の2区間は繰り上げスタートとなりました。

その7区を担ったのは桂君(1)です。桂君は1年生でありながら練習では丸岡君や日比君に勝つこともあるようで、今後が期待されるルーキーです。予選会以降、思ったような結果は残せていなかったようですが、今大会では区間12位、繰り上げ組では先頭で引っ張るなど2着と力走してくれました。順位もひとつ押し上げ13位に。

アンカーの8区は池内君(1)。池内君は浪人時代のブランクもあり、シーズン序盤はかなり苦しんでいました。しかし予選会以降は徐々に本来の走りに近づき、大学ベストをどんどん更新し、今回アンカーに抜擢されました。しかしこの8区では区間19位と非常に苦しい走りに。結果総合順位は15位でのゴールとなりました。

全体の結果としては京都産業大学と立命館大学が中盤で抜け出し、アンカー勝負になり、まさかの3年連続でのラストのスパート合戦になりましたが、今年は3秒差で京都産業大学に軍配が上がりました。この3秒という秒差、丹後大学駅伝における1位と2位の過去最大秒差です。こんな大会聞いたことがありません。

神戸大学は最終結果として15位になってしまいました。しかし1区の出遅れを2、3区でしっかり立て直したりと、見応えがあるレースではあったと思います。ただ、この秋シーズンに自己ベストを出せた選手が少なかったことが後半区間での失速につながってしまったかなという印象です。

今年で引退する選手は日比君と阿賀君の二人。

人数こそ少ないですが、これまで主要区間を担ってきた2人です。

その穴を埋めるのは簡単なことではないですが、今回走れなかった藤田直君(3)、坂元君(2)、井上君(1)も力があります。各選手がそれぞれ切磋琢磨し合って、全体でタイムの底上げをしてほしいです。また個人的な期待ですが、来年最終学年になる岡野君(M1)にはぜひ来年、最後の学生駅伝を走ってほしいと思っています。

最後に個人の所感を述べたところで、私の観戦記を終わらせていただきます。